

令和元年度 大社高等学校 学校評価

重点目標	担当	評価項目 ※「評価」欄の基準は肯定的評価の％：A=80%以上 B=65～79% C=50～64% D=50%未満	生徒評価			保護者評価			教職員評価			評価	自己評価 ※太字=反省点など	改善策	学校関係者評価委員会での意見	評価委員						
			評価	％	評価	評価	％	評価	評価	％	評価											
《教育目標》 豊かな心の育成 郷土に思いをいたし、 こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材を育成する	(1) 基本的な生活習慣の確立	生徒指導部	規律ある生活習慣が確立できるように、全職員で指導できたか	3.2	85	A	3.1	88	A	2.5	54	C	B	・頭髮、服装とも概ね良好であるが 全職員での指導が不十分 である。 ・携帯電話の校内での不正使用はここ数年に比べ減少している。	・eネット講座等の機会を利用して情報モラルを学び、ネットトラブルやネット犯罪等に巻き込まれないよう指導を徹底する。	・生徒の服装などの乱れは特に感じない。良好であると思う。携帯電話の不正使用数の減など適切な指導がなされていると感じる。 ・県全体三連朝をはじめ素晴らしい活躍だった。熱心な指導に感謝している。	A, B					
	(2) 生徒理解に基づく教育の促進	保健部	・生徒の心身のさまざまな問題について、保護者、スクールカウンセラーなどと連携して、相談・対応できる体制が整えられていたか	3.1	83	A	3.0	87	A	3.4	96	A	A	・担任や部活動顧問等と生徒情報を共有し、保護者や医療機関とも連携しながら適切に支援できた。スクールカウンセラーから、支援方法の個別の助言を受けることができた。	・支援が必要な新入生の情報共有は図れたが、新2・3年生については不十分な点があった。次学年への情報伝達の仕組みを考える。	・県全体三連朝をはじめ素晴らしい活躍だった。熱心な指導に感謝している。	A					
	(3) 互いの人権を尊重する学校づくり	人権・同和教育部	・人権講演会や学校生活アンケートの実施等を通して、人権意識を大切にする教育を推進できたか	3.2	84	A	3.0	88	A	3.3	93	A	A	・人権推進委員会などを通じて人権・同和教育全体計画や取り組み内容を見える化し、全教職員での共通理解を図った。 ・人権HR活動で扱う題材の選定や学習指導案作成に工夫の余地がある。全学年対象の人権講演会は有意義であった。 ・生徒ふれあい委員会の活動は昨年度より活性化した。「人権・同和教育部だより」を発行人権意識の向上を図った。	・いじめ・からかいの未然防止に向けて、人権推進委員会の場でもアンケートの見直しなど有効な取り組みを考える。 ・LGBTなど、同和問題以外の人権課題についても取り扱うことを検討する。 ・「人権・同和教育部だより」の内容や発行回数について検討する。ふれあい委員会の活動について、後期の活動内容を工夫する。	・ネットトラブル、ゲーム依存等は保幼小中においても大きな課題の一つである。生徒達の状況や園・学校での取組等について連携を図りながら対応していただきたい。	A					
	体育科	・あらゆる教育活動の実践を通し、体育科生徒が望ましい人間関係を構築できるようサポートできたか	2.8							69	B	3.2		90	A	・多くの部活動顧問には土日も返上して部活動指導に当たってもらっており成果も上がっている。部内人間関係に悩む生徒も少なくない状況がある。	・限られた時間の中でも、教員が積極的に部活動に係わり、生徒同士が適切なコミュニケーションをとれるように指導・助言を行うことを促していく。	・特別支援教育（特に発達障害や愛着に関わる問題）は学校において重要事項の一つだと思う。職員研修が大切だと考える。 ・パラリンピックを活用した学習を通じた人権教育の実施や、人生の目標・生き方などを生徒に考えさせるような取組があればよい。 ・部活動指導など先生方の負担はかなり多いと思う。学校運営全体を見直し、ある程度軽重をつけて取り組み、少しでも負担軽減がなされるように願いたい。	A			
	(4) 人格形成の場としての部活動の推進	体育科	・安全かつ健康的に部活動に取り組み、納得のいく結果を残すことができたか	3.3	87	A	3.1	83	A	3.0	83	A	A	・毎月ボランティア活動を案内した結果、多くの生徒が校外活動に参加した。昨年度に比べ、参加者延べ数は119名と倍増した（昨年58名）。	・地域のコミュニティセンターやボランティアセンター等と連携し、生徒の主体的な地域貢献に向けて更なる情報発信を行う。		A					
学力の向上 たくましく生き抜く実践力のある人材を育成する	(1) 思考力・表現力を育む授業の推進	教務部 2年部	研究授業・公開授業・授業評価等の実施により、授業の改善と のための指導法の共有が図られたか	3.1	86	A	3.0	83	A	2.7	61	C	B	・公開授業週間を年2回実施し教員の授業力向上に役立てた。 近隣の中学校等に公開授業や研究授業の案内をしなかったことが課題 である。 ・各教科が協力して、課題解決型学習、言語活動を取り入れた授業、ICT教育の充実、アクティブ・ラーニング型授業の推進等ができた。教育課程については、各教科での検討に取りかかる段階に留まった。 ・ 家庭学習に対する生徒の意識差が大きく習慣づけが不十分であった。	・公開授業や研究授業の案内を早めに行うとともに、近隣の中学校等へも案内して中高連携を実施する。	・「授業力向上」「授業改善」は教員の最重要課題でもあるので、自己評価が向上するよう（働き方改革の観点で）業務改善しながら取り組んでほしい。 ・総合的な学習は教員の熱意や生徒の小中学校での学習経験が関係していると思う。時間を十分に確保することも難しいかもしれないが、学習内容が深まるよう、小中学校との情報交換なども必要かもしれない。 ・今年度、地域課題について関心を持ち課題を設定されたことやコミュニティセンターにも生徒が来てくれたことなど、大変嬉しくまた頼もしく感じた。こうした学習経験を積んだ人たちが、今後地域の中で活躍してくれることを期待する。 ・地域課題の探究は息の長い活動であり、早急に達成することは難しい時間的にも大変である。日々地域と関わる活動や地域での実体験が大切。「高校生を地域にいかに取り込むか」という地域コミュニティーの姿勢も大切である。 ・地域課題解決型学習の全体発表会において、発表の態度、話し方、声の大きさ明確さ、マイクの使い方など、全般的に発表力が乏しいと感じた。 ・朝読書は生徒にとって良い機会である。継続して取り組めるよう検討してほしい。	B					
	(2) 互見授業・授業研究の促進	教務部 2年部	生徒が学習習慣の確立や学習課題の把握によって主体的に学習し、学力を伸ばせるように教科担当との連携や面談などの支援ができたか(2年)	3.0	76	B	2.9	81	A	2.6	57	C		・ICTの活用については、ICT機器をより効果的に活用するための研究を進めていく。来年度の新教育課程カリキュラム作成に向けて、情報収集を進めていく。			B					
	(3) ICT教育の充実	教育研究部 1年部	「総合的な学習(探究)の時間」において、各学年のねらいを明確化した指導計画を作成し、効果的に実施できたか	3.2	83	A	3.0	81	A	2.7	63	C	B	・学年会とは連携しながら実施できた。 1年生については、長期的な計画がうまく立てられず、見直しを持った取り組みという点では不十分 であった。 ・フィールドワークや大学訪問、地域の方の講演会など、地域の方々と関わる機会を持つことができた。 ・2年生での自己評価や他者評価、校内発表審査等が生徒の意欲維持に繋がった。	・地域と関わる活動の実施時期や方法を再検討し、探究活動に繋がりを持たせる。 ・生徒昇降口黒板に地域情報を掲示していく。		C					
	(4) 探求型「総合的な学習」の充実	教育研究部 1年部	総合的な探究の時間や学校行事などを通して、地域への理解・愛着や社会への問題意識をもったり、他者と協力して活動したりするような支援ができたか(1年)							3.0	83	A		3.0	83	A	3.0	83	A	・図書館便りを毎月HPに載せるなど、図書館の情報発信に努めた。 ・「総合的な学習(探究)の時間」等をはじめ、各教科の調べ学習の場としての活用が多くなされた。 ・2学期に朝読書を試行して生徒が本に触れる機会の確保を図ったが、 実施方法については検討の余地 があった。	・引き続きホームページを利用した情報発信を行う。 ・授業における計画的な図書館利用を促していく。 ・朝読書は、効果が上がるように実施時期や実施方法を検討していきたい。	
	(5) 図書館の学習センターの活用	教育研究部	各種イベントや図書館だより、展示等を通じて、読書や図書館活動を推進することができたか	3.0	74	B	2.9	73	B	3.2	94	A	B				B					
進路志望の実現 たくましく生き抜く実践力のある人材を育成する	(1) 個に応じた進路指導の充実	進路指導部 3年部	進路希望調査やスタディサポート、進路検討会を通して、生徒の進路志望や思いを的確に把握し、担任と協力してアドバイスや相談ができる体制を整えていたか	3.1	79	B	3.0	82	A	3.0	85	A	B	・ 低学年次の生徒の進路意識の高揚と早期の進路目標設定をはかる具体的な取り組みが必要 。 ・放課後や早朝からの有朋館自主学習は活発だったが 週休日利用が少なかつた 。 ・小論文の早期指導について、受験科目としての位置づけから、体系的・計画的な指導を行いたい。 ・県高校総体3年連続1位を獲得するなど部活動には全力で取り組み成果を上げた。 部活動終了後の受験勉強への切り替えが不十分 であった。	・1、2年生向けの進路説明会の回数を増やす。 ・有朋館の週休日の活用については、生徒の利用頻度や日直教員の負担も考慮して開館・閉館を検討していく。 ・小論文指導については各教科と連携し、生徒の視野の拡大や自己表現力養成に寄与しているかを評価する。	・生徒がもつ自己目標が学習への取り組みに現れると思う。自己目標がしっかりと持てるよう生徒への支援をお願いしたい。 ・大きく揺れ動いた入試改革だが、生徒にとって不利益にならないようお願いしたい。	B					
	(2) 模試結果など各種情報の提供と分析	進路指導部 体育科	各教科や担任と連携しながら補習や模試、面接・小論文指導を効果的に進めたか							2.7	65	B		3.0	82	A	3.0	82	A	A	・ 模試分析の提示が遅れ気味 であった。より迅速な結果分析を行い生徒の学力把握と伸長に繋げたい。 ・3年進路検討会は進路指導部・学年会全体で協力して実施できた。 ・進路講演会や学校説明会、「栄冠への道」「進路の葉」等の発行は実施できたが HPの活用が不十分 であった。 ・土曜補習を廃し、生徒が課外ボランティア、体験活動、オープンキャンパス等に参加しやすい環境を整えた。 ・3年の平日補習、夏季補習、冬季マーク演習、個別対策講座等を計画的に実施した。 推薦での進路決定者の中に補習への取組意欲に欠ける者もいた 。	・3年模試の回数や1、2年スタディサポートの回数を1回減らし、十分な振り返りと復習ができる体制にする。模試の一部を希望者対象とする。 ・進路検討会の資料の改善や在り方等を進路指導部で協議する。
	(3) 大学入試改革への対応	進路指導部 体育科	多岐にわたる進路選択に対し、適切な情報を提供し、進路の実現に向けた取り組みができたか(体育科)	3.3	88	A	3.2	89	A	3.0	85	A	A				A					
	(4) 各補習の充実	進路指導部 体育科	多岐にわたる進路選択に対し、適切な情報を提供し、進路の実現に向けた取り組みができたか(体育科)							3.0	85	A	3.0	85	A	3.0	85	A	A			
	信頼される学校	(1) 地域や小中学校への情報発信と連携	総務部	PTA総会・評議員会・教育研修会、HP・『社高の風』・PTA通信などにより、家庭や地域へ積極的な情報発信をし、開かれた学校づくりが推進できたか	3.3	89	A	3.3	93	A	3.3	100	A	A	・総会・評議員会へは例年どおりの参加者があった。また教育研修会参加者も昨年度より増加し、内容も大変好評だった ・HPの更新や『社高の風』『PTA通信』などの定期的発行も概ね達成できた ・約700名の中学生のオープンスクール参加があり盛況だった。第2回の学校説明会を実施したが、 昨年度のような在校生との交流は持たなかつた 。 ・本年度の志願者数は普通科・体育科とも増加しており、中学生に大社高校の魅力を伝えることができていると思われる。	・学年PTAは年2回とし、学年会等と連携して内容を充実させる ・教育研修会への参加者を、研修委員会以外のPTA評議員にも募る ・部活動・学年会・他の分掌等の協力で、こまめなHP更新を実現する	・今後も大社高校の良さ・魅力のアピールをよろしくお願ひしたい。	A, B				
教務部		高校説明会・中高連絡会・公開授業等を充実させ、本校への理解促進と求める生徒像の周知徹底を図ることができたか	2.8	77							B	2.8	77		B	2.8	77	B	A	・7月末のオープンスクールで、在校生と中学生が交流できる機会を増やす ・本年度は4月に新入生アンケートを実施して、志望のきっかけや高校説明会・高校紹介パンフレットの印象などを調査したい	・緊急連絡メールを学校評議員にも送られるようにしてはどうだろうか。大社高校近くにいるので、場合によっては何かできることがあるかもしれない。	
生徒指導部		安全で安心な生活習慣が確立できるような指導ができたか	3.2	82							A	3.0	81		A	2.9	83	A	A	・ 自転車に乗りながらスマホやイヤホンの使用が目立つた 。多くの生徒は交通安全に気をつけている。ドライバーの不注意もあるが 自動車との接触事故も多数発生 している。PTAと連携した交通安全指導も実施できた。	・全校生徒対象に交通安全指導、交通安全講話を実施する。	
(2) 安全で安心して過ごせる学校や寮運営 (3) 生徒・保護者面談の充実		生徒指導部	いじめの防止・発見、いじめの組織的な対応ができたか	3.1	93	A	3.2	90	A	3.1	93	A	A	・年3回のアンケート調査等により、いじめの把握がなされ、関係教職員により概ね適切な対応がなされた。 ・避難訓練は2回とも計画どおり実施できた。生徒や保護者への 緊急連絡メールは改善すべき点もあつた 。大社高校周辺の通学路・避難場所等の新たな確認や調査は実施できなかった。 ・掃除場所により生徒の取組みに差があつた。指導の徹底を図ったりトイレ掃除のマニュアル作成などを通して不十分な箇所の改善を行った。 ・安全点検を実施し、事務室が整備対応した。生徒環境委員会で掃除用具の点検・補充、清掃中の見回り、ゴミ分別と持ち帰りのチェックを行った。 ・事務部や業者と連携し、モップやマットの設置場所や数を見直した。 ・いじめに関わる問題や不登校傾向の生徒の情報を共有し、学年会や生徒指導部、保健部、部活動顧問等で連携して対応できた。 ・「時を守り、場を清め、礼を尊ぶ」姿勢を涵養するため、清掃指導に力を入れたことで、教室環境が整った。	・アンケート調査をより充実させるとともに、職員研修等の実施により、いじめ等に関する教職員の人権意識の高揚を図る。 ・素早く確実に生徒や保護者への緊急連絡メールが届くよう改善を図る。 ・通学途中の避難場所等の確認や調査を実施する。	・生徒の通学途中などの事故が発生しないよう、今後も交通安全指導は徹底してほしい。						
		総務部	危機管理の立場で、人命を尊重し実践に即した防災避難訓練等を実施し、緊急時の迅速な連絡体制を確立することができたか							3.0	90	A		3.0	90	A	3.0	90	A	A	・来年度も掃除のマニュアルを作成し、掃除の徹底を図る。 ・安全点検表を活用し、修繕箇所のチェックや整備に活かしていく。	・学年PTAは年2回だが、特に2年生は進路決定の段階で重要な学年だと思われるので、もう1回程度増やしても良いのではと思う。
		保健部	清掃活動や安全点検等の取り組みは適切であったか	3.0	90	A	3.0	90	A	3.0	90	A	A	・日頃から生徒個々の言動に留意し、問題の早期発見に努める。 ・交通マナーや携帯電話使用等についての規則の周知徹底を図る。	・新型コロナウイルス感染拡大防止への適切な対応など、危機管理については常に検証しながらの対応が求められる。	A						
		1年部	生徒が自他の人権を尊重し互いを認め合う集団となるような支援や、規則やマナーを守る態度を育て安心・安全な学習環境を整えることができたか	3.1	80	A	3.0	83	A	2.8	75	B	A	・生徒面談やいじめ・学校生活アンケート、人権意識に関するアンケート等を参考にして、学年全体の問題点を把握し、クラス指導や学年指導に役立てる。 ・部活動が学校生活全般に良い影響をもたらすように支援する。								
		2年部	自らの言動に気を配り、適切にコミュニケーションをとりながら互いを高め合う集団となるよう支援して、安心・安全な生活環境を整えることができたか	3.0	81	A	3.0	81	A	3.0	81	A	A	・生徒の様子を観察し、機会を捉えた指導や人権意識を高める授業を行う。 ・アンケート結果を活用し、生徒指導部などと連携して必要に応じた具体的な取り組みを行う。								
		3年部	最高学年の自覚を持ち、お互いを理解し認め合う集団づくりができたか	2.9	81	A	2.9	81	A	2.9	81	A	A	・互いの個性を尊重しながら成長する集団づくりの支援は概ね達成できた。 ・いじめや学校生活に関するアンケート結果から、 他者への配慮を欠いた言動が見られたが、人権に関するHRや講演会等を通じ人権意識をが向上した 。 ・ 部活動を通じて規範意識を高めることが不十分 であった。	・監舎教員と連携し寮生活の充実を努める。そのために生徒自身の活躍の場を増やし自分たちで寮を管理する意識を高めた。自己管理の一環でインフルエンザ予防接種を全員に受けさせた。 ・出雲農林高校との寮の共同利用開始に伴い、これまで以上に生徒とのコミュニケーションを図っていく。							
		舎務部	寮生のライフスキルが向上するように指導できたか	2.9	75	B	2.9	75	B	2.9	75	B	B	・アンケート結果は肯定的意見が大半で、ほぼ良好であった。個々の小さな問題は、必要に応じて生徒と個別に面談し意識疎通を図った。生徒に役割を持たせる指導、「一人一日一奉仕活動」の成果が現れている。 ・アンケート結果からも 自己管理の徹底の必要性を感じた								